



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

R05/01

33号

〒770-0812 徳島市北常三島町 2丁目 34 番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

新年のご挨拶 — 令和5年 コロナ禍の先を見据えて —

明けましておめでとうございます。
私が徳島市民病院事業管理者に就任してからの3年間は、新型コロナウイルス感染症の対応に明け暮れ、市民病院の経営改善は後回しにせざるを得ない状況が続いています。

公立病院にとって、新型コロナウイルス感染症の患者受け入れは重要な責務です。当院では11階の緩和ケア病棟を感染症病棟に改造し、他病院に先駆けてコロナ患者の受け入れを開始しました。それに伴い5階の回復期リハビリ病棟を休床して、マンパワーの確保にも努めてきました。当初は応急処置的な対応のつもりでしたが、まだ当分は現体制を続行せざるを得ない状況にあるかと思っています。コロナが終息すれば急性期病院としての新たな改革が必要でしょう。

当院では、院内クラスターの被害は最小限におさえることができたと思います。三宅院長のリーダーシップの下に、職員全員が力を合わせて迅速な対応をしていただいた結果と考えます。マスク、手洗いの励行など基本的な予防策はもちろん、変異株に対応したワクチン接種も怠ることのないように心がける必要があります。「予防に勝る治療なし」です。

第8次医療計画では従来の5疾病5事業に「新興感染症に対する医療」が6番目の事業として加わります。また「医師の働き方改革」や「地域医療構想」など公立病院が取り組むべき課題が山積しています。徳島市民病院が急性期病院として生き残るには職員全員が協力して経営改善に取り組む必要があります。目の前の患者さんを良くすることが何より大切ですが、健全な経営への取り組みにもご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



病院事業管理者
安井 夏生

新年明けましておめでとうございます。昨年に続き三が日はほかほか陽気で、良いお正月をお迎えになられたことと思います。早いもので令和になって4回目、院長職を拝命して7回目の新年を迎えました。

コロナは収束までにまだ時間がかかりそうですが、ウィズ（アフター）コロナの世界はすぐそこにまで迫っており、医療を取り巻く環境はこの1年で大きく変化することが予想されます。パンデミックのために進捗が遅れていた地域医療構想もすでに動き出し、さらに医師に対する働き方改革関連法が来年4月に施行されます。法律を遵守したうえで救急医療、周産期医療を始めとする徳島の医療を守っていくことは当院の喫緊の課題であり使命と考えております。

そのためには、人材が最も大切です。嬉しいことに来年度は初期臨床研修医定員7名がフルマッチしました。将来の徳島の医療を担っていく医師になるよう大事に育てていきたいと思っています。

さて、激変する医療環境を見据え、本年は「市民病院としてのアイデンティティーを失わず、多様性を受け入れ環境変化にしっかりとついていく」ことが最も大切です。情報を正確に得て、変化に速やかに対応しなければ生き残っていきけません。その上で基盤としての急性期医療、地域医療、災害医療の内容をさらに充実させ、地域住民の皆さまに頼りにされ、心より「ここに在って欲しい、在って良かったと思われる病院」を目指して、全職員が一丸となって頑張る参りたいと思います。本年もご指導、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



市民病院長
三宅 秀則

災害訓練を終えて

11月19日、ここ数年における集大成の大規模災害訓練を実施し、職員と市立高校生を含めて約90名が参加しました。内容は令和元年度・3年度訓練^{*}の続きとなります。

※令和元年度は『災害時の初動確認』、令和3年度は『初動確認後、診療継続可能な判断にて周辺の多数傷病者受入を決定し各エリア設営』を想定した訓練内容。なお、令和2年度は『クラスター対応訓練』。

今年の訓練は、傷病者200人を90分で受け入れTTT(トリアージ・治療・搬送)を実施するという高難度なものです。運営側として災害訓練を実施して以来、一番過酷な内容にしました。

それでも参加者からは「災害医療に興味を持った」、「次回も参加したい」等の意見が多く、市高生もアツいレポートを届けてくれました。以下に引用します。

「災害が発災すれば、CSCA TTTを合言葉に冷静に行動できるようにしたいと思います。また、私は将来医師を目指しているため、自分だけでなく周りを見て冷静な判断を下せるようになりたいです。そして、今回学んだことは災害時だけでなく日常生活から実践し、それにより災害時も混乱することなく落ち着いて行動できるようにしていきたいと思います。 小西 史央奈」

参加したDMAT全員、重畳の至りです。

次年度の訓練は宮本隊長によると、この続きであり医事経営課職員がメインとなるようです。職員の皆様のご協力と、積極的な参加をお待ちしております。



訓練終了後、ロビーにて



徳島市立高校の皆さんの訓練風景

第60回 全国自治体病院学会

全国自治体病院学会は、病院に勤務する全職種が集まり、分科会ごとに特別講演やシンポジウム、ポスター方式での発表等を行う学会です。今年は沖縄県開催で、会期は11月10日、11日でした。



ポスターセッションの様子

会場は盛況で、当院から薬剤部の伏谷 秀治、臨床工学室の豊田 英治さん、患者支援センターの森田 敏文さん、看護部の猪子 美由紀さんがポスターセッションを行いました。

発表は職種別ですが、ポスターを見たり発表を聞くのは自由です。薬剤師だけでは解決できないことも、この職種に頼れば良いんだなと気づくなど、多職種のブースはとても刺激的です。他院の薬剤師の発表は、薬剤部のこれからを考える上で指針にも参考にもなり、勇気づけられもします。とても勉強になりました。

さて、会場は3カ所に分散し、そのうちメイン会場（那覇文化芸術劇場）は一ととポスター会場（県立武道館）は1.7kmと距離があります。そこで、自転車同伴での参加です。初日は雨でしたが2日目には上がり、昼休みを利用して首里城（金城町石畳道）まで行ってきました。お昼は「沖縄ぜんざい」を食べて戻ります。金時豆のぜんざいでした。昼休みなので2杯目は断念。

(薬剤部 伏谷 秀治)

質の高いEOLケアに向けて

ELNEC-J コアカリキュラム 看護師教育プログラム in 徳島が10月29日と11月5日の2日間にわたってWeb開催され、当院は初のホスト役を務めました。

これは、日本各地における緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケア(EOLケア)の更なる啓発と普及、質の向上を目指した看護師教育プログラムです。疾患や対象に関わらず、EOLケアを提供するために必要な知識が包括的に盛り込まれています。

1日目はモジュール(教育単位)ごとに全体講義が行われ、EOLケアにおける看護、倫理的な問題や文化への配慮、痛みのマネジメントや臨死期のケア等について講師が解説しました。2日目は全体講義を挟みつつ、グループワーク中心に進行していきます。過去の症例等について仮説を立て検証を行うケーススタディ、求められる役割を演じて疑似体験を積み、職務に活かすロールプレイ学習などが行われました。

講義後には質疑応答の時間があり、全プログラム終了となります。参加した皆さんからは「Webなので勝手が違う部分もあるが、セッションは実践的で充実していた」、「参加者同士のつながりも生まれる重要な機会」などの声が届いており、ホスト役としてほっとしています。この経験を糧とし、今後もEOLケアの周知や看護の質向上のため研鑽を続けていきたいと思っています。



講義中の様子

(緩和ケア認定看護師 林 真弓)

磁気共鳴専門技術者に認定

核磁気共鳴専門技術者認定は、MRI (Magnetic Resonance Imaging) に関わる検査技術の向上・技術者の育成・医療安全の維持等を目的とした技術者認定です。現在、認定者数は全国でおよそ1300人、徳島県内では4人。私はこの度、認定者に加わることができました。

受験には、MRI基礎技術講習での確認試験や当院装置での性能評価試験通過が必須です。一昨年は新型コロナウイルスの大流行による県外移動制限、昨年は濃厚接触者になったことでそれぞれ受験を断念してきましたが、今年改めて認定試験へ挑戦できたことで、臨床だけでは知りえなかったMRIの基礎が身についたと感じます。

今年3月には当院MRI装置が更新されます。最新のMRI装置を最大限に活かせるよう、培った知識を活用し新たな撮像技術の導入や研究発表に取り組むとともに、患者さんに安全で良質な画像検査を提供できるよう尽力します。(放射線科 西山 由佳子)



専門技術者に認定された西山技師

始業前清掃活動



12月5日午前8時より、三宅病院長をはじめ職員40名が年に一度の始業前清掃活動を行いました。病院周辺道路のゴミ拾い、敷地内の落ち葉集めなど、約15分ほどの活動です。

昨年に比べてゴミは少なく、ペットボトル、空き缶等はあまり落ちていませんでしたが、煙草の吸い殻が多かったようです。

参加者からは「今年は昨年に比べて風がまったくなかったけど寒かった。掃除し始めたら、15分はすぐやな」との声が上がっていました。

(接遇委員会 森田 敏文)

徳島大学医学科より実習生受け入れ

当院では1月10日～2月3日と2月13日～3月10日までの各4週間、徳島大学医学科よりそれぞれ16名の実習生を受け入れる予定です。実習生の皆さんは、指導医について各診療科で診察や手術、検査等の見学・介助を行い、様々な経験を積む中で今後のキャリアプランを具体的に作成していくこととなります。

新任医師ご紹介



外科 専攻医
仲須 千春先生

患者さんと向き合い、真摯に診療に取り組みたいです。よろしくお祈りします。

AED オートショックの新機種に更新

12月27日、当院はAED（自動体外式除細動器）の更新を行いました。

このたび導入した新機種は、音声ガイドやディスプレイアニメーションの指示に従い、患者に電極パッドを装着すると心電図の解析が始まり、除細動が必要な場合は自動で電気ショックが行われる「オートショック機能」が搭載されています。

医療スタッフが多い基幹病院でのオートショックAED採用はまだ少なく、徳島県内の公立病院では当院が初の導入となりました。

操作者の負担軽減は、より迅速な救急蘇生につながると期待されています。（臨床工学室 豊田 英治）



今回更新されたAED



1階総合受付横に設置の1台

研修医日記

初期臨床研修医 松本 真奈 松井 菜

初期臨床研修医1年目の松本 真奈と申します。徳島県出身で、文理中学校、高等学校に通っていました。

中高時代を思い返すと、体育の授業時、女子はほぼバレーとバスケットのみ（男子はサッカーとソフトボール）、庭に滝がある、変な校則があるなど変わったところが多い学校でした。しかし、個性的で楽しい授業をしてくださる先生方やおっとりした同級生に囲まれ、平和で楽しい学生生活もありました。

卒業後は名古屋大学に進学、室内合奏団に所属し、フルートを演奏していました。大学から始めた楽器なので試行錯誤しつつ練習を続けていましたが、部活の引退とコロナ禍による音楽教室の閉鎖が重なり、上手くなる前にあまり演奏しなくなってしまいました。いつかまた、音楽教室に通って勉強し直したいと思っています。

徳島市民病院で働き出して、早いもので9ヶ月が過ぎました。まだまだ分からないことが多く、先生方やコメディカルの皆さんに助けていただければ毎日の毎日です。一日でも早く業務を覚えて貢献できるように日々精進していきたいと思っています。ご迷惑をかけてしまうことも多々ありますが、どうかご指導のほど宜しくお願いします。



今年の4月からお世話になっております、研修医1年目の松井 菜と申します。初期研修も9ヶ月目になりました。

最初は右も左も分からず、慣れないカルテ操作や造影室でのルート確保、声のかけ方など多くのスタッフの方々にご迷惑をおかけしたと思います。ある程度流れが掴めてきた現在も皆様にたくさん助けていただきながら、毎日楽しく研修を続けております。今年は同期も5人いるため、お互いに切磋琢磨しながら頑張っています。

せっかくいただいたこの機会に、少し自分について紹介させていただこうと思います。私は生まれも育ちも徳島で、徳島市立高校、徳島大学の出身です。地域枠のため、これからも徳島で働く予定です。幼い頃から犬を飼っており、現在も家にはゴールデンレトリバーとラブラドルレトリバーがいます。仕事帰りには、よくペットショップに立ち寄っておやつをたくさん買ってしまいますので、2匹とも33kgと大きく育ちました。

趣味はゴルフで、大学時代に部活で始めました。一番好きなクラブは1w、一番苦手なクラブは5wです。ベストスコアは87とまだまだですが、これからもスコア更新にむけて精進したいと思っています。

2年間の研修生活、これからもやる気と元気はいっぱいに、積極的に頑張ってお参ります。ご迷惑をおかけする事も多々あると思いますが、是非とも宜しくお願いいたします。

